日语

写作教材

日 语 写 作 教 材

北京第二外国语学院日语系编

旅游教育出版社
·北　京·

图书在版编目(CIP)数据

日语写作教材 / 北京第二外国语学院日语系编. -北京: 旅游教育出版社, 1998.7
ISBN 7-5637-0758-1

I.日… II.北… III.日语-写作-高等学校-教材 IV.H365

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (98) 第 13401 号

日语写作教材

北京第二外国语学院日语系编

*

旅游教育出版社出版
(北京市朝阳区定福庄南里 1 号)
中国科学院印刷厂印刷
新华书店经销

*

开本: 787 × 1092 毫米 1/16 8.5 印张 150 千字
1998 年 7 月第 1 版 1998 年 7 月第 1 次印刷
印数: 1—3000 册 定价: 11.50 元

前　言

为了使大学日语专业学生在听、说、读、写、译等各方面全面发展，我院日语系在三、四年级开设了写作课，并编撰了教材。本教材是在原教材的基础上，根据当前形势的发展及将来工作的需要，并参考了大量日本国内写作方面的书籍编写而成的。

本书供大学三、四年级使用，按周授课2学时计算，大约需要120学时左右。内容的编排，考虑到学生的实际水平和需要，采取了循序渐进的原则，涵盖了从标点符号的使用、文章写作的起承转合等基础到论文、各种公文、自荐书、乃至传真、电子信箱等应用文的写作，实用性强。不仅可作为写作教材来使用，亦可作为日文工作者、日语学习者的参考书随时查阅。

为了便于学习者消化、掌握所学内容，每章后都附有练习题，以供操练。

在本书编写过程中，从编写宗旨到内容都经过了反复讨论，以求精益求精。我院日本专家上野隆久先生从构思、编写到电脑输入都倾注了大量心血和精力，在此表示衷心的感谢。由于编者水平有限，该书定有纰漏和不当之处，期盼读者批评指正。

北京第二外国语学院日语系
写作教材编写组

一九九八年五月

目　次

単元編

【単元一】　句読点・表記符号の使い方 …… 1
【単元二】　原稿用紙の使い方 …… 6
【単元三】　自己紹介文 …… 10
【単元四】　常体と敬体 …… 13
【単元五】　話し言葉と書き言葉 …… 15
【単元六】　中国語の影響による間違い …… 17
【単元七】　文脈（一）――文の長さ、呼応 …… 19
【単元八】　文脈（二）――接続詞と接続助詞 …… 23
【単元九】　文脈（三）――「は」と「が」 …… 27
【単元十】　段落構成 …… 30
【単元十一】　個性的な文章 …… 34
【単元十二】　要約文 …… 36
【単元十三】　意見文 …… 41
【単元十四】　スピーチ …… 45
【単元十五】　感想文 …… 48
【単元十六】　説明文 …… 55
【単元十七】　卒業論文を考える　（一）――日本語 …… 58
【単元十八】　卒業論文を考える　（二）――日本文学 …… 66
【単元十九】　卒業論文を考える　（三）――日本文化・社会 …… 78
【単元二十】　敬語 …… 80
【単元二十一】履歴書と自己ＰＲ文 …… 85
【単元二十二】手紙 …… 88
【単元二十三】公用文 …… 91
【単元二十四】記録文 …… 94
【単元二十五】電話 …… 96
【単元二十六】ファックス、電子メール …… 99
【単元二十七】卒業にあたって …… 101

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

資料編

【資料一】　仮名遣い …… 102
【資料二】　送り仮名 …… 105
【資料三】　漢字の使い分け …… 108
【資料四】　同音異義語 …… 111
【資料五】　修辞 …… 114
【資料六】　文章の論法と展開 …… 118
【資料七】　履歴書 …… 120
【資料八】　封筒、葉書、往復葉書の書き方 …… 122
【資料九】　記録文書の形式 …… 125
【資料十】　作文題目例 …… 128

【単元一】　句読点・表記符号の使い方

［一］ねらい

一、句読点を正しく使い、わかりやすい文を書く。

二、日本語の表記符号を正しく使う。

［二］語句

句読点、句点、読点、中黒、括弧、カギ括弧、二重カギ、波形、リーダ、ダッシュ、疑問符、感嘆符、漢字返し、ひらがな返し、大返し

［三］ポイント

一、句読点

句読点は、言葉の区切り目を示すものである。句読点のない文章は、読みにくかったり、意味があいまいになったりすることがある。たとえば、

月が昇る日は沈む船は沖に浮かんでいる

と書かれると読みにくい。これを

月が昇る。日は沈む。船は沖に浮かんでいる。

と書けば読みやすくなる。また、

学校ではやらない遊び

では、

学校では、やらない遊び

なのか、

学校で、はやらない遊び

なのか、わからない。

句読点は、文章の流れを整理する力を持っている。文章の交通信号とも言える。だから、ムードで打つのではなく、「読みやすく、わかりやすく、誤解を招かぬ」ように打つことが原則である。

句点は文末に打つものと考えれば、まず間違いない。一つの文を完全に言い切ったところで使う。読点の打ち方には、明確な決まりはない。読みやすさを考えて打つのがよいが、読みやすい文にするために適切な語順が考えられるように、一応基準とすべき「読点の原則」がある。

二、読点の原則

以下に、読点の原則を挙げるが、ここに挙げた原則に忠実に読点を打つと、読点が多くなりすぎる場合もある。読点が多すぎると、かえって読みにくくなる。その

ような時には、読みやすさを考えて、読点の数を調節する必要がある。

①文の構造が複雑で長い場合

ａ、重文（複文）の切れ目に打つ。

例：おじいさんは山へ柴かりに、おばあさんは川へ洗濯に行きました。

ｂ、述語にかかる長い主語や修飾語が二つ以上ある場合、その切れ目に打つ。

例：池の尾の町の者は、こういう鼻をしている禅智内供の為に、内供の俗でないことを仕合わせだと言った。（芥川龍之介「鼻」）

ｃ、読み誤りの恐れのある、語句を隔ててかかる主語や修飾語の後に打つ。

例：もちろん、あなたがいやだとおっしゃるなら、強いておすすめしませんが。

ｄ、長い修飾語の付く語句を、ひとまとめにして示す場合。

例：裏の山の松の木の上の鳥の巣が、風で壊れてしまった。

②文中で、ある語句をほかと区別したり、強調したりして指示する場合

ａ、接続詞の後や、感動詞、呼びかけ、応答の後、および、文のはじめにくる副詞の後に打つ。

例：それは、しかし、問題だと思う。

ｂ、時、場合、場所、方法など限定や条件を表す語句の後に打つ。

例：明日午前十時、公園広場で集会を行う。雨天の場合は、順延する。

ｃ、文の成分を倒置した場合。

例：美しい、彼女の横顔は、実に。

ｄ、対等に並べる句の間に打つ。

例：桃も、桜も、梅も、それぞれに美しい花を咲かせる。

ｅ、会話文、引用文など「　　」で囲んだ場合は「　　」の前に打つ。「　　」がない場合は、前後に打つ。

例：母が大きな声で、「おやめなさい。」と言った。

例：彼は首を傾げて、よくわからないよ、と小さい声で言った。

ｆ、挿入句の前後、あるいは前に打つ。

例：句読点の打ち方、特に読点の打ち方がいい加減な人は多い。

ｇ、息の切れ目や読みの間を示すところで打つ。

例：カーン、カーンと、鐘が鳴る。

三、表記符号

表記符号は、文字では表現できない意味を表すための大切な記号である。わかりやすい文を書くために、なくてはならない句読点以外の記号が表記符号である。

①・（なかぐろ）

ａ、物を並列する場合。

例：桜・梅・薔薇、みんな好きだ。

b、日付などを表す場合。

例：一九九七・一〇・一五

c、外国の人名や地名

例：ヘルマン・ヘッセ

②（　）（かっこ、パーレン）

言葉に説明を加える場合。

例：卓球大会（９月２８日実施）に参加する人は、名前を書いてください。

③「　」（かぎかっこ）

a、会話の場合。

例：「こんにちは。」

b、その言葉を強調する場合。

例：彼が求めたのは「自由」だった。

c、論文などの名前を示す場合。

例：佐伯梅友「古典を文法的に読む」『日本語学』一九八六年四月号

④『　』（にじゅうかぎ）

a、会話の中に会話がある場合。

例：「息子が、『あなたに会いたい。』と言っていた。」

b、書名、雑誌名を示す場合。

例：夏目漱石『こころ』岩波書店　一九九六年

⑤～（なみがた）

時、場所などの「――から――まで」を示す場合。

例：午前１０時～１２時

⑥……（てんせん、リーダー）

a、省略する場合。

例：赤・青・黄――、さまざまなネオン。

b、余韻を持たせる場合。

例：彼は行ってしまった――。

⑦――（ダッシュ、なかせん）

a、言い換える場合。

例：三年前――私が大学生の時――私は恋をした。

b、間を置く場合。

例：彼と言えば――まだ幼かった。

⑧？（ぎもんふ）

疑問文の最後の場合。原稿用紙に書くときは、次の一マスを空白にする。ただし、次が括弧の場合は空白はとらない。

例：

「	本	気	か	？		ど	う	い	う	考	え	だ	？	」	

⑨！（かんたんふ）

呼びかけ・命令・感嘆文の場合。原稿用紙に書くときは、次の一マスを空白にする。ただし、次が括弧の場合は空白はとらない。

例：

「	火	事	だ	！		逃	げ	ろ	！	」					

⑩々（どうのじてん、かんじがえし）

漢字一字の繰り返しの場合。

例：人々

⑪ゝ（ひらがながえし）

仮名一字の繰り返しの場合。普通はあまり使わない。

例：やゝ　まゝ

⑫／＼（おおがえし、くのじてん）

仮名二文字の繰り返しの場合。普通はあまり使わない。また、横書きの時は使わない。

例：いそ／＼と

［四］演習

一、次の各文では、句読点の打ち方によって読み方や意味が変わってくる。例にならい、句読点の打つ位置を変えることによって、読み方や意味の違う文を作れ。打つべき句読点の数は＜　＞内の指示に従うこと。ただし、④は三種類の文を作ることになる。

例：ここではきものを脱いでください＜句点１、読点１＞

ここで、はきものを脱いでください。

ここでは、きものを脱いでください。

①来月の試験はやめてください＜句点１、読点１＞

②彼の父の質問に答える態度はよくない＜句点１、読点１＞

③犯人は運転手で足の速いＡさんに追いかけられた＜句点１、読点１＞

④私は旅先で道に迷ってたたずんでいる女性に声をかけた＜句点１、読点１＞

⑤私は慌てた友人に失敗を望んだそんな自分が恥ずかしい＜句点２、読点１＞

⑥明日は雨が降る天気ではない＜句点１、読点１＞

二、次の各文に対して、＜＞内に指示された数の句読点を打て。

①昨日は一日中どんよりと曇っていたが今日は久しぶりの五月晴れであるこんな日はみんなを誘ってピクニックに出かけたい気分になる＜句点２、読点４＞

②学校から帰宅すると家の中には誰もいなかったいつもならおしゃべりで私につきまとってくる妹もどこかに出かけているようだった＜句点２、読点４＞

③教室に明るいみんなの気持ちをやわらげる絵写真を飾りたいと思います自分の作品複製画などでいいものがあれば持ってきてください＜句点２、読点４＞

④三代将軍徳川家康の孫家光は幼名を竹千代といった彼はキリスト教を禁圧して鎖国体制を強固にしたまた茶道絵画などに通じ風流を好んだ＜句点３、読点６＞

三、次の各文には、表記符号の使い方の不適当なものがある。その部分に下線を引き、正しく改めて下に書け。

①花壇には赤＝白＝黄の三色の花が咲き誇っていた。よく見るとそれは花時計だった。

②先生は、説明のあと静かな声で、「どうわかったかい！」と尋ねた。子供たちは待ちかまえていたかのように「わかった！」と大声を張り上げた。

③こんなに楽しい学生々活が送れたのは、みんな友達のおかげだと思う。

④『昨日王先生が「月曜にはグラウンドでサッカーの試合をする。」と言っていたよ。』

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

【単元二】　原稿用紙の使い方

［一］ねらい

一、日本語の原稿用紙を正しく使う。

［二］語句

原稿用紙、題、改行、段落、引用文、会話文

［三］ポイント

一、題と氏名

縦書きの場合、二行目の上から四文字目くらいから題を書く。ただし、一枚程度の原稿の場合、一行目に書いてもよい。題の次の行の下の方に、氏名を書く。氏名を書いた行と本文との間にも一行空白の行を入れると見た目がよい。

横書きの場合、二行目に題を書くが、左右が均等に空くように中央に題を書く。ただし、一枚程度の原稿の場合、一行目に書いてもよい。題の次の行の右の方に、氏名を書く。氏名を書いた行と本文との間にも一行空白の行を入れると見た目がよい。

					「	楼	蘭	」	を	読	ん	で				
								3	年	1	班			劉		艶
	井	上	靖	の	「	楼	蘭	」	は	、	西	域	小	説	と	呼	ば
れ	る	も	の	の	中	で	も	異	色	の	も	の	で	あ	る	。	そ

二、文字と符号の書き方

文字、句読点、かっこは一つずつマス目に入れて書く。句読点と拗音や促音の小さいかなは、縦書きの場合マスの右上に、横書きの場合はマスの右下に書く。ただし、句点と閉じるかっこは同じマスに入れて書いてもよい。また、句読点および閉

じるかっこは行の頭に書いてはいけない。その場合は、行の最後のマス目の文字と一緒に書く。あるいは、行の下の欄外に書く。

また、拗音や促音の小さいかなは、行頭に書いてよい。

例：

富	士	山	が	よ	く	見	え	る
。	そ	の	よ	う	な	と	き	は
、	空	気	が	澄	ん	で	い	る
が	、	特	に	冬	場	の	朝	の

誤

上のようには書かずに、次のように書く。

富	士	山	が	よ	く	見	え	る
そ	の	よ	う	な	と	き	は	、
空	気	が	澄	ん	で	い	る	が
特	に	冬	場	の	朝	の	眺	め

。

、

正

三、改行と段落

段落の書き出しは、改行して一文字下げて書く。二文字下げる中国語の書き方とは異なるので注意する必要がある。書き出しも当然一文字下げる。

一文ごとに改行して書く人がある。しかし、段落は、そこでいくつかの文が集まって一つの意味のまとまりを作っていることを、視覚的に示すものである。一文ごとに改行してしまっては、この効果がなくなってしまうことになる。

四、会話文の書き方

会話を引用するときは、小説、随筆などでは行を改めて、かっこでくくって書く。評論文、説明文などでは、改行しないことが多い。また、心の中で思ったことなどは、改行せずに書いたり、ダッシュを使って引用する場合もある。記号の使い方に注意して書く（参照【単元一】）。

例：

彼	は	、						
「	そ	ん	な	こ	と	は	、	初
め	て	聞	い	た	。	」		
と	、	驚	い	た	顔	を	し	た	。
「	い	つ	も	の	こ	と	だ	よ	。」
と	私	は	答	え	る	し	か	な	

雑誌の小説などの会話を見ると、会話の終わりでは、文末に句点を打たず、かっこだけを記しているものが多い。教科書では句点を打ってからかっこで結んでいるが、この方が丁寧な書き方である。

［四］演習

一、次の原稿の間違いを正せ。

将	来	の	夢	'					3	年	3	班		孫		軍	
		人	間	な	ら	誰	で	も	、	将	来	の	夢	を	持	っ	て
い	る	。	人	に	よ	っ	て	は	、	小	学	校	の	こ	ろ	か	ら
変	わ	ら	ず	に	、	同	じ	夢	を	持	ち	続	け	て	い	た	り
、	ま	た	、	人	に	よ	っ	て	は	ず	い	ぶ	ん	何	回	も	変

二、次の文章を、原稿用紙の書き方に注意して、原稿用紙に書き写せ。

春の郊外電車

佐々木瑞枝

「お父さん、桜は何分咲きでしょうね。」
「お母さん、それは僕にきくよりおばあちゃんにきいたほうがいいよ。僕はだいたい、そういうことにはうといんだ。」
女の人が尋ねると、隣に座る中年の男性がてれたように答える。
「おばあちゃん、僕知ってるよ。あしたは七分咲きくらいで、お花見にちょうどいいって、先生が言ってたもん。」
「やっぱり、お兄ちゃんは偉いね。先生の言うこと、よく聞いてる。」
と、おばあちゃんとよばれた人が感心したように言う。
ヒギンズ先生は先ほどから、おもしろくてたまらないというふうに、にこにこしながら目の前の家族連れの会話に耳を澄ましている。
「先生、何がそんなに楽しいんですか。一人で楽しんでいらっしゃるなんて、ずるいですね。」
と、からかい半分に小声で尋ねると、
「あのね、今この方たちが話していることを英語に翻訳したら、実に奇妙なことになると思って……。」
と、英語でひそひそと答える。
はて、そんなに奇妙な会話を、この楽しげな家族は交わしていたのだろうか。ヒギンズ先生は、わたしの腑に落ちないといった表情を見て、先を続ける。
「妻は夫をお父さんとよび、夫は妻をお母さんとよぶ。実におもしろい。わたしは初め、彼女が『お父さん』と相手の男性に話しかけたとき、びっくりしたんですよ。彼女の父親にしては、ずいぶん若いなと思って。ところが今度は、彼女のことを『お母さん』ってよんだでしょ。それで、彼らは夫婦なんだとわかりました。じゃあ、本当の母親のことはなんとよぶのかと思ったら、『おばあちゃん』でしょ。これをみんな、そのまま英語に翻訳したら、聞いている人は混乱してしまいますよ。」

【単元三】　自己紹介文

［一］ねらい

一、日本語で文章を書くということに慣れる。

二、原稿用紙を正しく使う。

［二］語句

名前、趣味、特技、生年月日、家族構成、出身地、故郷自慢、性格、明るい、おとなしい、まじめ、優しい、楽天的、友人、将来の夢、庭師、庭石、設計師、図面、通訳、ガイド、営業マン、翻訳、編集

［三］ポイント

一、自己紹介文の内容

名前や生年月日のような客観的な事実から書きはじめ、趣味や将来の夢へと発展させる。また、全てのことを盛り込もうとすると、小間切れになった魅力のないものになってしまうので、特に伝えたい一つか二つの事柄を紹介した方がよい。

自己紹介文は、自分を初めて知る人が読むものである。第一印象というのは大事であるから、わかりやすく、気取らずに書くべきである。また、字を特に丁寧に書く必要があろう。

二、自己紹介文を書く順序

①材料を集める

自分を紹介するといっても、自分のどういう面を紹介しようとするかによって、取り上げる事柄はちがってくる。まず、取り上げられる材料をメモの形で書き出してみる。その際、自分は、他の人のどんな面を知りたいかも考え合わせると、集めやすくなる。

②中心となる事柄を決め、材料を整理する

材料が集まったら、他の人にわかってもらいたいことは何か、ぜひ知ってもらいたいこぶとは何かを考え、中心となる事柄を決める。そして、中心となる事柄に関連のある事柄を、集めた材料の中から選び出し、不足と思われるときは、新たに集める。

③事柄ごとに詳しくカードに書く

中心となる事柄が決まり、材料が整理できたら、それぞれについてさらに詳しく思い出し、調べる。そして、そのときの様子や自分の気持ちなどもよくわかるように、カードに書き出してみる。

④順序を考えて、一つの文章にまとめる

カードがそろったら、内容の順序を考えて並べる。そして、重なった内容を整理し、足りない内容を補う。さらに、つながりの不自然なところを直し、全体が一つながりの文章になるようにまとめ上げる。

⑤清書する

文章を一とおり書き終えたら、自分の知らせたいことが、読み手に十分伝わるかどうかを考えながら、読み返す。そして、言葉づかいなどにまちがいがあれば直し、表現を整えて、原稿用紙に清書する。

二、自己紹介文の例（日本の中学生の作品）

一年Ａ組のみなさんへ

「まじめ」――みなさんは、この言葉をどういう意味で使いますか。

みなさんは、この言葉を「真剣にやる」「一生懸命にやる」という意味だと思っているでしょうし、そのような意味で普段使っていると思います。わたしも同じです。実は小学校五年生のころから、わたしは、「まじめ」というあだ名でよばれてきました。

みんなが遊んでいる放課後などに、わたしは一人で読書していたことが多かったから、物事に真剣に取り組むと思われていたのかもしれません。しかし、わたしは、ただ本を読むことが好きだっただけなのです。

本当は、もっと明るく、みんなといっしょに活発にふるまいたいと思っていたのです。今までは、自分の気持ちをなかなか外に表すことができず、ついつい消極的になってしまっていました。でも、これからは、自分の中の積極的な面をのばして、中学生としての新しい自分を作りたいと思っています。

ですから、みなさん、わたしにどんどん話しかけ、声をかけてください。わたしも、できるだけみなさんに話しかけ、何にでも積極的に参加するように努力します。

こんなわたしです。どうぞよろしくお願いします。

将来の夢

わたしは、庭師になりたいと思っています。庭師とは、植木の手入れをしたり、庭を作ったりする人です。わたしが庭師になりたいわけは、三つあります。

一つ目は、父が庭師で、いろいろ植物の話を聞いているうちに、自然と親しく付き合ってみたくなったということです。

二つ目は、今の世の中は、どんどん緑が減ってきているということです。だから、緑を大切に守っていきたいと思ったのです。

三つ目は、小さいころから、草や木、花などを育てるのが好きだったことです。

けれども、このことを父に話すと、そのたびに父は、

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com